

## 「日米共同統合実動演習キーン・ソード（KS25）に抗議する」

10月23日～11月1日に沖縄県など南西諸島を中心に、中国を念頭に大規模な日米共同統合実動演習キーン・ソード（KS25）が行われている。その中では、平時から自衛隊や海保が利用できるとした「特定利用空港・港湾」を含む12の空港、20の港湾が利用されている。

このことは、我々、9月18・19日に開催した第17回全国港湾定期大会において満場一致で可決した「港湾を兵站基地にするな！今こそ全世界の平和と安全を」特別決議から大きく逸脱し、日本が戦争への階段をまた一歩二歩と近づきつつあることを実感するものである。そして、最大規模の日米共同統合実動演習は、カナダとオーストラリアが初めて参加する。並行して米海軍とカナダ海軍の艦船が台湾海峡を通過して中国をけん制することになっている。

今、日本は、日米軍事同盟の枠を超えて、更なる対中国の包囲網としての一翼を担い、沖縄県を対中国攻撃拠点にすると同時に、中国からの反撃で文字通り「戦場化」を想定している。約80年前の沖縄戦での悲惨な出来事を繰り返してはならないことを訴えるものである。

また、この演習は当初災害訓練とされていたのが、軍事訓練へとなんの通知もなく一方的に変更したことは、我々港湾労働者を欺くだけでなく、国民への信頼を損なうものである。自衛隊は燃料補給訓練の為に石垣港を使用する。この事は、全国各地の民間港が同様に使用される事を示唆するものであり、民間港（石垣港）が自衛隊等の補給基地に変容される恐ろしい事態である。

全国港湾及び沖縄地区港湾は、港湾労働者の安全、職域の安全確保の為に民間港の「兵站基地化」を阻止しなければならない。

このような事態に我々、全国港湾は、特別決議で謳ったように、あらためて、「港湾労働者は、港湾が兵站基地となり戦争の犠牲者となることや協力者となることも拒否する固い決意を込め、重ねて戦争終結を呼びかける」ことを前面に掲げ、今回の日米共同統合実動演習キーン・ソード（KS25）に反対し、断固として抗議するものである。

2024年10月28日

全国港湾労働組合連合会

中央執行委員長 竹内

